地域コミュニケーション紙　57便　2014年4月10日　13,000部発行

しお風

発行　まちづくり工房「しお風」　　責任者　神保智子　☎090-3142-9358
ホームページ　http://www.scn-net.ne.jp/~shiokaze
しお風つうしんブログ　http://shiokaze.hama1.jp/　　メールアドレス　shiokaze@mj.scn-net.ne.jp

臨時特集号

大磯町配置予定の
生ゴミ施設整備中止!

二宮町のごみ処理広域化脱退の正当性が証明された今こそ!

二宮町の財政破綻を招くゴミ処理広域化の再検討を。

「しお風」は、住民が主役の『共育のまちづくり』を進めることが夢。一住民の立場から、住民の生の声に耳を傾けながら、町への課題提起や提案をしてきました。

地域コミュニケーション紙「しお風」を発行するには、取材や調査等の労力と印刷費や新聞折り込み料等の費用が必要です。労力は無償、費用はカンパや協賛、他紙での原稿料で賄っていますが、いつも苦しい状況の中で14年以上継続してきました。

SEISA GROUP
星槎中学高等学校
星槎国際高等学校
星槎学園　湘南校
中等部・高等部
中学高校学校見学随時
二宮町二宮1352-4
TEL0463（71）0991
星槎大学 教育・環境・国際関係 教員免許取得
特別支援教育について専門的に学べます!!
http://www.seisa.ac.jp

「しお風」への情報提供、配布やカンパ等のご支援をお願いいたします。

振込先　さがみ信用金庫二宮支店　まちづくり工房「しお風」普通　022003
お問合せ・ご連絡先　まちづくり工房「しお風」神保智子　☎090-3142-9358
メールアドレス　shiokaze@mj.scn-net.ne.jp

子どもたちの未来にツケを負わせるな！　莫大なゴミ処理負担で。

2月3日にゴミ処理広域化で大磯に計画されていた生ゴミ施設整備の中止が公表されました。毎年支払う広域化負担金、3年間は2重支出の可燃ごみ処理費、新設される剪定枝資源化処理施設、施設内容・規模・稼働予定が不明な不燃物処理施設の用地取得費などの莫大な負担により、二宮町は財政破綻を招くことが懸念されます。

実施計画が変更されたこの時期に二宮分の配置計画が妥当であるか再検討する必要があります。古沢前町長に脱退の真相を取材すると共に、私たち町民にとって適正であるか検証してみました。次代を担う子供たちにツケを負わせないように、私たちは行動を起こしましょう。

1　加速する財政危機

今年度の予算は、基本的な町行政を運営する一般会計で収入(歳出)、支出(歳出)は76億円と、昨年より1億1千万円減少しています。それでも収入が足りなくて貯金(基金)を約1億2千万円取り崩しています。

昨年度末に残っている借金(町債)は、下水道事業と一般会計を合わせると約141億円、下水道事業の借金は約66億、一般会計の借金は約75億です。

今年度は約11億4千万円を返済する予定で、このうち利子返済だけで2億5千万円です。

これから、税収が益々落ちていくことが予想され、借金の返済負担が今以上に重くのし掛かります。

しかし、貯金(基金)はわずか約3億2千万円で一般会計の支出(歳出)の約4%にすぎず、いざという時の備えがありません。

財政危機への誘因

平成22度に風致公園用地購入(約20億)を含む過去最大決算額(約96.5億円)となる大規模投資事業の複数実施

平成24年度の東大二宮果樹園跡地(4.5億円)の購入

平成24年度のゴミ処理広域化推進事業(約3.1億円)

ゴミ処理広域化脱退後2年半で復帰の申し入れ、5年半で復帰しています。まったく正反対の町の方針変更。その理由はどこにあるのでしょうか？復帰後、二宮町の負担は軽くなったのでしょうか？中面に**古沢吉郎前町長に伺った　脱退の驚きの真相**を掲載しています。一緒に検証してみましょう。

広域処理施設の配置計画

施設の種類	平塚市	大磯町	二宮町	稼働予定	施設規模
高効率ごみ発電施設(焼却施設)	◆			25年度 二宮28年度	315t/日
~~厨芥類資源化施設~~	~~一部 3万人分のみ~~	~~◆ 中止~~		~~29年度~~	~~前処理設備 38t/日 メタン発酵施設 17t/日~~
粗大ごみ破砕処理施設	□			25年度 二宮27年度	55t/日
リサイクルプラザ	□			25年度 二宮27年度 缶・びんのみ	11.6t/日
リサイクルセンター		◆	~~◆~~	31年度 30年度	ペットボトル施設1t/日 容器包装プラスチック施設4t/日
剪定枝資源化施設			◆	27年度	18t/日
最終処分場	□			25年度 二宮27年度	456,000㎡
不燃物処理施設			◆	将来整備	未定
し尿処理施設		□ ◆	○	新設31年度	500kl/日

◆広域対応新設施設　□広域対応既存施設　○既存単独施設

注　平成24年3月「平塚・大磯・二宮ブロックごみ処理広域化実施計画」と平成26年2月4日神奈川新聞記事等を参考に作成

赤字が厨芥類資源化施設中止に伴う変更

図の「施設の種類」に青字で記載されている施設が二宮町に新規に整備する必要がある施設、緑字は既存施設を改修して利用する施設

共育のまちづくり

ゴミ処理広域化復帰までの経緯

(議会答弁等から作成)

Ⅰの時期　[1年間]
見返り条件にノーで広域化復帰を否定

■ゴミを受け入れ可能な埼玉県寄居町ではなく、積替しなくてもよい近隣の町にお願いするが断られる

■県内で交渉したが協力得られず

■焼却停止の9月30日までの時間がなく、唯一のゴミの外部搬出先大和市との交渉事は全部従うとして積替施設を慌ててつくる

Ⅱの時期　[1年3箇月間]
広域化復帰に方針変更

■大和市へのゴミの外部搬出は不安定という理由で復帰条件は丸呑み、用地が確保でき次第復帰のお願いをすることに方針変更

Ⅲの時期　[3年間]
広域化復帰へ邁進

■焼却施設建設予定地の平塚市大神地区の自治会・地区長に町長自らお願い訪問

■二宮町民20名も連れてお願いさせる

■広域化復帰をお願いする立場で全て容認したうえとして議会での討議させず

■実施計画案への二宮町民のパブリックコメント募集に消極的

トホホなトップ決定、無責任な対応

① 広域化脱退路線をきちんと検証せず、二宮町のゴミ処理の将来像を持たず

② 半年で交渉断念、近隣町の町長に確認したところ交渉のおぼえはないとのこと、他にも候補市があったことが判明、本当に公的な外部搬出先がなかったのか疑問

③ 正反対の方針変更なのに、復帰できたことが最大の利益と説明、最初から復帰条件を丸呑みで交渉せず、意見を聞く耳もたず

④ 脱退の非を認め、復帰嘆願し、二宮町の正当な主張を一切できない土壌を自ら作り出す

⑤ 町民に責任を負わせてお願い同行

⑥ 内容が全て不明確な不燃物処理施設(最終処分場?)でも容認

ゴミ処理広域化等に関わる経緯

平成14年7月～平成19年5月
焼却炉等操業差止請求裁判

平成18年3月
1市2町ゴミ処理広域化の基本協定締結

平成18年6月～平成19年5月
ごみ積替施設に係る支出差止裁判

平成18年9月
1市2町ゴミ処理広域化計画から脱退表明

平成18年11月
「積替施設はつくらない」と公約した現町長当選

平成19年9月
Ⅰ 焼却炉操業と最終処分場埋立て停止

平成19年10月
ゴミの外部搬出・桜美園施設の一部を活用した暫定ごみ積替開始

平成19年12月
Ⅱ 平塚市・大磯町間で基本協定の調印、平塚・大磯ブロックでゴミ処理広域化実施計画策定

平成21年3月
二宮町から復帰の申し入れ、平塚市・大磯町・二宮町で広域化に関する覚書が締結

平成22年8月
Ⅲ ゴミ積み替え施設建設工事

平成23年5月～現在も裁判中
ごみ積替施設建設中止請求裁判

平成24年3月
平塚市・大磯町・二宮町で広域化に関する協定が締結、実施計画公表

平成25年
平塚市でゴミ焼却施設稼働、二宮町は負担金払うも使用できず

子どもたちにツケを負わせない。できることから始めましょう！

大磯議会は生ゴミ処理施設建設中止を町長に決断させました。背景には町民の力があります。

★予算・決算、ごみ処理広域化に関することを二宮町長、職員、議員に説明してもらおう！
★わからないこと、疑問を伝えてみよう！
★自分で調べてみよう！
★仲間を作って、話し合ってみよう！
★提案してみよう！

データ等の詳細は、「しお風つうしんブログ」の「ごみ処理問題」をご覧ください。
http://shiokaze.hama1.jp/c16896.html

かながわの朝市
～季節の美味しさ・楽しさ
規　格　A4判　24ページ　オールカラー
発売価格　定価200円
発売場所　ASA二宮・4月6日ﾗﾃﾞｨｱﾝ日曜朝市本部・まちなか♥ほっとｽﾎﾟｯﾄ・伊勢治書店二宮店・自家焙煎珈琲 café AILANA
問合せ＆申込み
かながわ朝市ネットワーク
朝市ガイドブック編集担当
「しお風」神保
☎ 090-3142-9358

古沢吉郎前町長 に伺った
ゴミ処理広域化　脱退の驚きの真相!!

1 予想外のデメリット計画に変貌

当初のごみ処理広域化は、平塚市が単独で焼却場を再整備するよりは補助金が出て、平塚市の経費節約に通じ、二宮町や大磯町の焼却場の問題も解決するので、二宮町長も大磯町長も平塚市の手助けになると参入したそうです。

しかし、担当者レベルでの会議は、平塚市に押し切られ、実現可能性調査の結果は二宮町も大磯町の負担は大変重いものになってしまい、慌てて首長で話し合いを持ちましたが、平塚市の担当部長は変更できないと言うことでした。

2 負担で財政危機になる懸念

その当時から将来人口は伸びず、財政見通しも暗いのに、実現可能性調査のごみ処理人口予測は平成14年当時のデータで算出した数値で非常に高いものでした。いくら補助金がでるからと言ってその数値で大規模な焼却施設を平塚市に整備したら、整備費(二宮負担分12.4億円)や運営の費用負担は膨大となり、人口予測値を現在のデータから算出した最新値に下げるように進言したそうです。

また、広域対応施設の用地取得費は二宮町だけで負担することとなり、3つの施設整備をしたら莫大な財政負担を強いられ、二宮町は財政危機に陥ってしまうと担当者も町長自身も懸念したそうです。

3 厨芥類資源化施設は問題視

厨芥類資源化施設は当時から問題視され、二宮町のように平塚市も大磯町も減量化・資源化を進めれば、必要か疑問に思い、必要かどうかを十分に研究・検討すべきだと進言したそうです。

4 最終処分場候補地も財源もなし

最終処分場候補地もなく、たとえ見つかったとしても、二宮町は平地が少ないので、用地取得費に加え、接道造成で莫大な費用がかかることを見越し、最終処分場整備は非常に難しいと認識していたそうです。

5 計画変更が受け入れられず脱退

脱退は町長が決めたのではなく、担当職員からゴミ処理広域化実現可能性調査の計画変更が受け入れられず、このまま参加していると大変な負担を負うことになるので、脱退したいと話があり、町長として脱退すべきと決断したそうです。

6 脱退しても対応策で問題なし

① 近隣の町がごみの受け入れを確約

ごみ処理広域化から脱退しても人口減でゴミ量は減り、大規模な焼却施設のごみ量不足により、受け入れてくれる施設はあると考えていたそうです。

他町の町長の仲立ちで近隣の町と交渉し、二宮町がごみ減量化を進めれば受け入れてくれる確約までとれていたそうです。公的な外部搬出先もほぼ決まっていたということです。

② 民間外部搬出先も好意的

その間、外部搬出する民間業者を担当職員が3社探し出し、その一つは偶然小田原高校時代の同級生が責任者でした。

先方も大規模な施設を整備したが、今後の人口減によるゴミ量の減少を懸念し、二宮町と取引できれば、行政との取引の実績になると喜んで、低予算で引き受け、当初の経費以上の値上げをしないことも合意を得ていたそうです。

古沢吉郎前町長、快く取材に応じてくださって、ありがとうございました。

やはりゴミ処理広域化は問題を抱えていたのです。復帰せずに独自の道を歩むこともできたでしょう。

また、復帰するにしても今後のゴミ量の減少で交渉の余地があり、現在のような不公平な条件を丸呑みする必要がなかったことがわかりました。

まだ、条件を是正する余地はあります。この機会に交渉を再開しないのは無責任です。

7 ゴミ処理広域化復帰は不思議

町長選挙戦が始まっていて、脱退理由や対応策を町民のみなさんにきちんと説明できなかったのは残念でした。

しかし、担当職員が脱退理由は分かっていたし、二宮町は町民のみなさんのご協力で減量化・資源化が非常に進んでいたので、今後より一層進めることが期待でき、復帰したことは不思議に思ったそうです。

ただ、ラディアン裏の用地(現風致公園)も東大二宮果樹園跡地も市街化調整区域で早急に町が購入しなくても民間の買い手はなかったはずですが、坂本町長は購入しています。

たとえ、買い手があっても学校法人や福祉法人であるので、町は規制をかけることができ、不適切な民間開発の懸念はないので、そのままにしておいても問題はありませんでした。

それなのに、慌てて購入しているように、初めて町長になったので、町政の一般見識や経験がなく期限に迫られて焦ってしまったのではないかと言うことでした。

また、坂本町長になってから公的な外部搬出先がなかなか見つからなかったのは、日ごろの人脈や交渉術がなく、県下の首長が協力してくれず、ゴミ処理広域化に復帰する方法を選択する方が容易だったのではないかということでした。

1 二宮町のおぼつかない貯金基金

今年度予算では、計画的な財政運営を行うための貯金である「財政調整基金」と「地域福祉基金」で1億2千5百万円取り崩し、地方債の返済を計画的に行うための「減債基金」は昨年度取り崩し既にゼロ。

平成24年度に創設された災害対策基金は約3千万円。3年で1億円を目指すはずが、たった3割。これで災害対策大丈夫?

2 借金(町債)が借金を生む負の連鎖

平成22年度に購入した風致公園の整備の借金10億5千230万円は今まで利子しか返済できず、今年度はその元金と利子で7億円近い返済。さらに今年度3千百万円も起債。ラディアン(生涯学習センター)の整備費17億7千940万円もまだ半分も返済できていません。

現在141億円以上の借金があり、借金の利子は膨らみ、地方債の返済を計画的に行うための「減債基金」もなく、借金が借金を生み、負の連鎖になっています。

3 東大二宮果樹園跡地は維持管理費が捻出できず将来計画白紙のまま貸出募集

平成24年度に東大二宮果樹園跡地を購入しましたが、町の計画性、責任感は無く、維持管理費が捻出できないために、今年度から5年間の貸出募集を行います。

4 公共施設の建替えほとんどできず

公共施設は老朽化し、建替えが必要ですが、昨年10月の「二宮町公共施設再配置に関する基本方針」によると、平成27年から50年間に必要な更新コストは245億円に対し64億円しか確保できない見込みで建替えがほとんどできません。

2 財政危機の責任の所在

町長の町政運営方針の「施政方針」によると今年度町民、地域、町行政の力を結集した「オール二宮」でまちづくりに取り組むそうです。町民、地域、町行政が一体になるには、町行政の役割や責任を明らかにし、町民の理解を得ることが大切です。

町長自らが責任を担わず、一方的に町民に責任を担わせることは筋違いです。

① 洞察力なくその場しのぎ

平成22年度に町の足腰を強くするために約96億5千万円の大規模投資事業を複数実施しました。投資前に将来ビジョン、リスク計算や財政計画を説明せず、現在の進捗度も示していません。また、ゴミ処理広域化に復帰した場合の負担の大きさは想定できたはずです。財政難だけを訴えるのは片手落ちです。

町長は責任ある対応をすべきです。

② 問題先延ばしで対策練らず

現風致公園用地と東大跡地の問題は急に浮上したのではありません。相手側から回答期限を迫られたからといって、議会等で十分検討せず、計画性なく行き当たりばったりでは町長の資質を問われます。

③ 問題究明せずに責任の所在隠し

ゴミ処理広域化から脱退した問題を究明もせず、180度の方針変更理由や「復帰」がベストな理由も明らかにしていません。町長は説明責任を果たすべきです。

不公平な条件を丸呑みして復帰したことの失態責任も明らかにしていません。

3 ゴミ処理広域化で財政圧迫

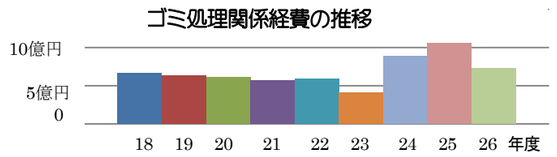
人口も一割少なく、一人当たりのゴミ排出量も2割以上少ない二宮町ですが、ゴミ処理広域化の負担金は大磯町と同額。しかもは負担金を払っても平塚市が新設した焼却施設は3年間、最終処分場などが2年間は使用できない不公平さ。そして、負担金と大和市等へのゴミ運搬費等の二重負担。

さらに、広域化復帰に間に合わせるかのように急ぎ、隣地との境界査定もしていない土地を手に入れ、現在も裁判中のゴミ積替施設整備に伴う用地取得費と整備費、剪定枝資源化施設の用地取得費は二宮町単独負担です。ゴミ処理広域化への復帰は、二宮町の財政を圧迫しています。

今後、不燃物処理施設の用地取得費やゴミ処理広域化各施設の修理費等も必要になり、さらに財政は圧迫されます。

平成23年度	二宮町	順位	大磯町	順位	平塚市	順位
人口一人当たりごみ排出量(g/日) ※総排出量÷人口÷年間日数	850	7	1,035	26	917	13
人口一人当たりごみの処理費(円) ※処理及び維持管理費(ごみ)÷人口	17,073	29	15,927	26	9,938	1
1トン当たりごみ処理費(円) ※処理及び維持管理費(ごみ)÷計画収集総量	54,889	30	42,596	20	35,119	12
リサイクル率(%) ※総資源化量÷総排出量×100	40.4	2	26.9	13	21.7	24

注 平成23年度神奈川県一般廃棄物処理事業の概要から作成



【ゴミ処理広域化脱退理由】(広報にのみやから要約)

◆実現可能性調査は決定ではなく検証が必要

①報告書の取り組み事項に沿って検証が必要で、減量化・資源化というソフト化策を行い、その上で必要最小限の施設を検討すべき

②減量化・資源化への取り組みへのご理解・ご協力が深まっているものと考え、将来予測について平成14当時のデータではなく、最新の数値に置き換えて予測をやり直すべき

③厨芥類資源化施設に充分な研究・検討をすべき

◆実現可能性調査でははっきり決まっていなかった最終処分場の扱いなどに合意できない

ごみ処理広域化実現可能性調査での二宮町の施設配置計画案

施設の種類	二宮町	施設規模
厨芥類資源化施設	◎	31t/日 3.9億
最終処分場	将来 ◎	未積算 15.4億
し尿処理施設	○	未積算
中継施設 (可燃ゴミの積替え)	◎	57t/日 3.0億

◎広域対応施設　○単独施設

注 平成18年11月10日発行「広報にのみや」と平成18年10月28日ラディアンで開催されたフォーラムにおいて当時町長であった古沢吉郎氏が配布した討議資料を参考に作成、赤字は討議資料から抜粋した二宮町負担額